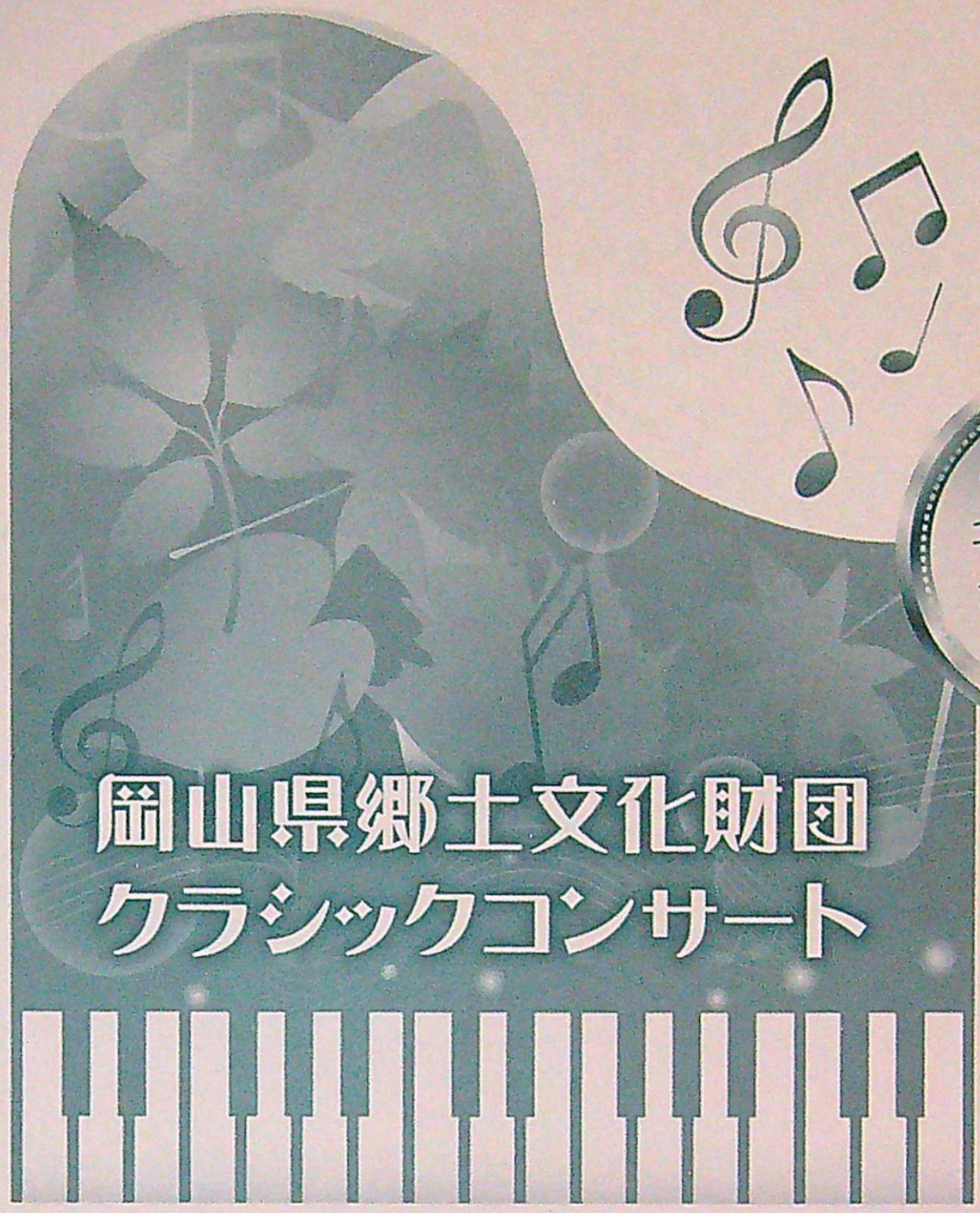


オーケストラが
やって来た!

2019年
11月24日(日) 13:30 開場
14:00 開演

総社市民会館(総社市総合文化センター)

主催:(公財)岡山県郷土文化財団・(公財)総社市文化振興財団
後援:総社市・総社市教育委員会

プロフィール

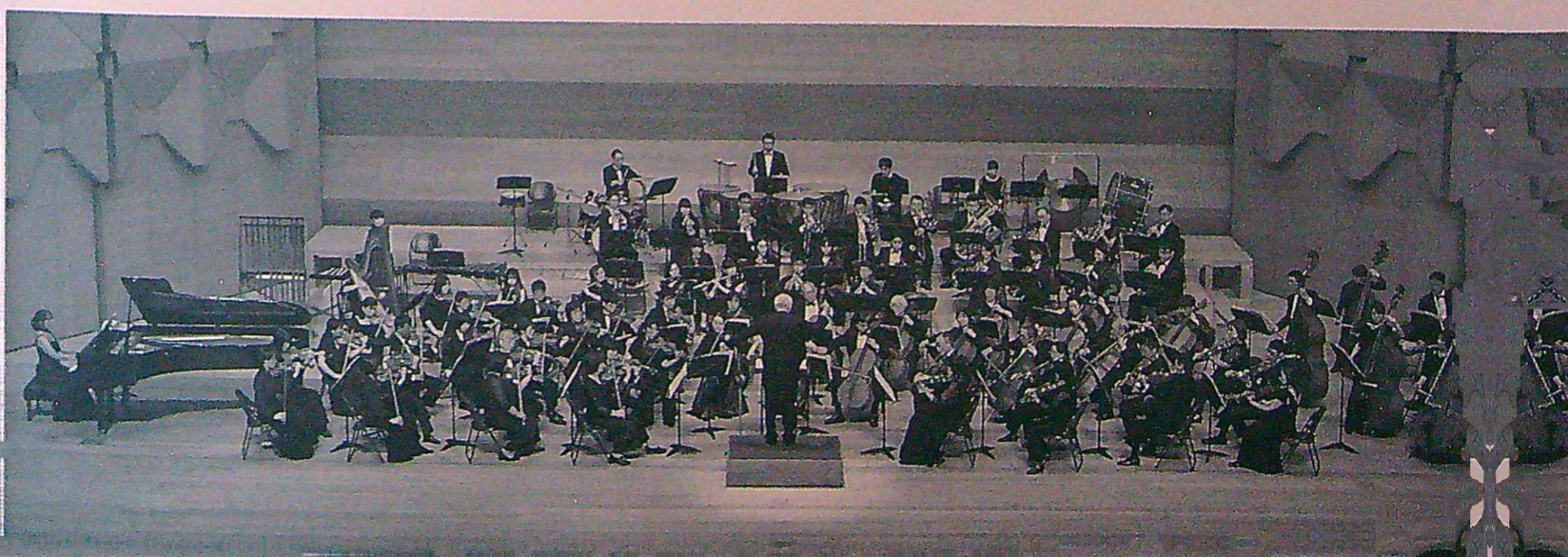
指揮／菊池　東(きくち　とう)

1948年倉敷市玉島生まれ。5歳よりヴァイオリンを始める。広島大学工学部醗酵工学科卒業。大学時代より指揮者としてクラブ活動を続け、卒業後東京都民交響楽団でサブコンサートマスターを経験し1973年帰岡。1974年文化都市倉敷にふさわしいオーケストラをという要望に応えて、倉敷管弦楽団を設立。以来現在まで常任指揮者として同楽団の活動・発展に大きく寄与している。2006年・2010年には「日本人音楽家のためのオーケストラワークショップ」に参加。ブルガリアホールにおいてブルガリア国立ソフィアフィルハーモニーを指揮する。1999年より倉敷音楽協会の会長を務め児童音楽コンクールを毎年開催し、児童の音楽レベル向上に寄与している。2006年には長年の文化活動が認められ、倉敷市文化賞を受賞している。

管弦楽団紹介

♪倉敷管弦楽団♪

「美しい音色とよいアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に1974年設立され今年で45年。年1回の定期演奏会では指揮者やソリストを外部より招聘し、全団員で研鑽を積んでいる。また設立当初より、県内各地での依頼演奏では親しみやすい名曲を、倉敷音楽祭ではオペラ歌手やミュージカル歌手との共演、ゲーム音楽や映画音楽など幅広いレパートリーで企画し、活動している。これらの活動が評価され、1985年倉敷市文化連盟賞、2004年三木記念助成金、2006年福武文化奨励賞を受賞。



プログラム

1　W. A. モーツァルト／歌劇「魔笛」より序曲K.620

2　O. レスピーギ／リュートの為の古風な舞曲第3組曲

休憩（約15分）

3　A. L. ドヴォルザーク／交響曲第8番ト長調作品88

第1楽章　Allegro con brio（速く生き生きと）
第2楽章　Adagio（ゆるやかに）
第3楽章　Allegretto grazioso - Molto vivace（優雅に－とても活発に）
第4楽章　Allegro ma non troppo（速くはなはだしく）

ごあいさつ

本日は、岡山県郷土文化財団クラシックコンサート「オーケストラがやって来た!」にご来場いただき誠にありがとうございます。

本公演は、普段なかなか地元のホールでは聴く機会の少ない、大編成のオーケストラによるクラシックコンサートを多くの方に親しんでいただこうと開催するものです。

（公財）総社市文化振興財団は、吉備文化の伝統を守り、それらを新しい市民文化へと育てるため昭和60年設立されました。一言で「文化」といっても、芸術や文学など様々な分野がありますが、総社市は中でも特に、吹奏楽や合唱などを中心に幅広い世代の方々が音楽に親しんでいる「音楽のまち」です。

音楽を愛する総社市民の皆様のため、本格的なオーケストラによる演奏をお楽しみいただけるこのような会を開催できることを大変嬉しく思います。

最後になりましたが、本公演の開催にあたり多大なるお力添えを賜りました、（公財）岡山県郷土文化財団様、倉敷管弦楽団様に心よりお礼申し上げます。

公益財団法人 総社市文化振興財団

♪歌劇「魔笛」より序曲K.620♪

モーツァルト:1756-1791年(オーストリア)

1791年春頃から作曲を始め9月に初演された、モーツァルトの生涯最後の歌劇(オペラ)作品です。3ヶ月後の12月、彼は35歳で亡くなりました。

この物語は実は支離滅裂で辻褄は合っていません。ですが現代風に解釈するとRPG(ロールプレイングゲーム)さながらで、200年以上世界中で愛されている作品です。

王子タミーノは、悪者ザラストロにさらわれた夜の女王の娘パミーナの肖像画を見て一目惚れ!夜の女王から「娘を助けてくれたら結婚を許す」とお守りに《魔笛》を持たされ、救出の冒険が始まります。道中、鳥刺しのパパゲーノが現れ相棒に。ところが本当のザラストロは「光の世界」を支配する高僧で、夜の女王は「夜の世界」の支配者でした。そのザラストロはタミーノとパミーナを「光の世界」の後継者にしようと二人に様々な試練を与えます。ピンチになると《魔笛》が救いの手となります。ついに合格した二人はザラストロの後継者となり、パパゲーノはパパゲーナというパートナーを見つけて幕を閉じます。

この時代には珍しくトロンボーンが3本使われ、厚みのある和音が響きます。そして緩まないテンポで進み続けたその先にモーツァルトの笑顔が浮かびます。

♪リュートの為の古風な舞曲第3組曲♪

レスピーギ:1879-1936年(イタリア)

イタリア生まれのレスピーギは若い頃から中世・ルネサンス音楽に興味があり、当時流行っていた「リュート(撥弦楽器)」の名曲集から1931年、美しいメロディを選んで発表しました。それまでは大編成の管弦楽作品であったのにこの第3組曲だけは珍しく弦楽器のみです。美しいメロディと力強いハーモニーで人気が高く、3つの組曲の中で一番演奏される回数が多いものです。

第1曲　イタリアーナ…作曲者不詳だが憂いを含んだ美しい曲
第2曲　宮廷のアリア…ベザールの作品が元になっている
第3曲　シチリアーナ…作曲者不詳だが現代でもよく耳にするメロディ
第4曲　パッサカリア…ロドヴィコ・ロンカッリのギター作品が原曲

♪交響曲第8番ト長調作品88♪

ドヴォルザーク:1841-1904年(チェコ)

「ぼくは今、美しい鳥の交響曲を書いている!」。親しい友人からどんな曲を書いているのか尋ねられた手紙に、ドヴォルザークはこのように返したそうです。

この曲は自身の別荘で書き始め、わずか3ヶ月ほどの1889年11月に完成しました。その別荘とはプラハの南部で豊かな自然に恵まれており、この第8番の作風に大いに影響しています。この別荘を手に入れる前はかなり辛い出来事が続きました。結婚後すぐに幼い子供三人を続けて亡くしたこと、オペラを発表するも世界的な成功に繋がらなかったことなど。しかし彼は、20代の頃から作曲家として自分を育ててくれた同郷の恩師スメタナの意志を継ぐように、民族意識を高く持ちチェコの素晴らしさを作曲することを決心しました。その記念すべき作品と言えるでしょう。

第1楽章　チェロの民族的な短調のメロディで始まり、すぐに鳥の鳴き声のフルートで明るい曲調へ導かれる。快活な中にもテンポに巧みな緩急をつけることで、どこまでも続く豊かな自然風景が浮かぶ

第2楽章　深みのある弦楽合奏からフルートの鳥の呼び声による管楽器の出現、そして掛け合いの後、明るく転調。印象的な下行系の音列で進んでゆく。伸びやかなヴァイオリンのソロが表れ多くの楽器の重なりを誘う。さらに強弱を付け高鳴った後静かに閉じる

第3楽章　ヴァイオリンが美しい旋律を奏でる舞曲。中間部のほのぼのした旋律は、自身のオペラ「頑固者たち」より「娘は若く男は年とって」を引用。最後にボヘミアらしいコーダ(終結部)で締めくくる

第4楽章　すがすがしいトランペットの導入からクラリネット、ホルン、ティンパニと移る。チェロが明るい動機を奏でて変奏の形が続く。次に日本人なら「こがね虫」にも聞こえる短調の動機をオーボエとクラリネットが奏でダイナミックに展開する。そしてチェロが再現部をおだやかに示し他の楽器もそれにならい終わりを導くかのように見えるが、意を決したように全楽器の鳴り響く怒濤のコーダを迎え一気に駆け抜ける